

すなおがいちばん!



ポイント

- ★筆者の言う「すなおさ」とは何か読み取ろう。
- ★全体の要旨をとらえよう。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

よいにつけ悪いにつけ、事実はみななんらかの意味をもっているのである。よいものは、そのなかにならずよくなる法則のようなものがあり、悪いものは、そのなかにも悪くなるような法則的なものを持っているのである。どちらからでも学んで、たえず自分をゆたかにしていけるのは、い

つでもみなさんの客観的な目だけである。
みなさんは、そういう客観的な目を持つ必要がある。そのためには、すなおな人間になり、すなおな目で自分の周辺のすべての事実をみていく必要がある。どんな事実でも、自分の感情や一方的な考え方でみないで、事実について考え、事実のなかにあるさまざまなものを見つけ出していくようにする必要がある。

この場合のすなおさということとは、ただ権威に服従するとか、盲目的に従順であるとかいうことではない。ごたごたしたもののなかから、真実とか、論理的な筋道とかを読みとっていく力を持っているということである。ごたごたしたもののなかから、さまざまのよいもの悪いものを分けたり、そのなかにあるよいものに感動し、すなおに他人のよいところを学んだり、すなおな気持ちでたがいに理解しあったり、影響しあったりすることができるとか行動力とかもつくり出していくことができるのである。

そういうすなおさが人間にないと、人間は固定してしまい、自分をあたらしく成長させていくことができなくな

てしまう。自分のものだけをよいと思ったり、自分はなにもできない無能な人間だと思ったり、人の欠点ばかりみたり、人に反抗するだけであったりする。また、人にかんたんに迎合したり、人のものまねだけをしたりするようになってしまう。そういう人は、自分から自分の成長をとめてしまっているのである。

詩人でもあり小説家でもある室生犀星氏は、つぎのように言っている。

「詩というものを作るといことは、ある意味で盗まなければならぬことだ。小説を書く場合にもまた多くを盗まなければならない。」
巧みに溶かしてぬすむということとは、その詩人なり小説家の、頭の溶かしぐあいと、ぬすむこと

によって盗んだ十倍も本物を自分から引き出すことにある。」
すぐれた仕事をしている人は、みなこのように、他のすぐれたものを、自分のなかへとり入れて、自分をつくり出しているようである。また、完全ではない他のものものなかから、よいものをえらびとって、自分を太らせ、自分のものをつくり出しているようである。

もちろんこの場合は、ただ人のものをそのまま盗んでつかったり、そのままのまねをしているのではない。他のすぐれたものや、かけらだけでもよいものがあるものと対面し、そこからヒントを得たり、拡大していったり、ぜんぜん質のちがうものを考え出していったりするのである。他のものを媒介にして、異質のものをつくり出していくことである。

チェックポイント

- 自分をゆたかにするために必要なものは何か。文章中から五字で抜き出し、で囲みなさい。
- 筆者は、「すなおな人間」になるといことは、ごたごたしたものの中から何を読みとる力を持つことだと述べているか。文章中から二つ探し、で囲みなさい。

- 人間は「すなおさ」を持つことで、何をつくり出していくことができるのか。文章中から三字で三つ抜き出し、で囲みなさい。

- 室生犀星は、詩や小説を書く際には、どうしなければならぬと述べているか。文章中から十字で抜き出し、で囲みなさい。

確認ポイント

- ……線「自分」と同じ意味を表す言葉として、最も適切なものに○をつけなさい。
- ア 他から盗んだもの
 - イ 他の人のよいもの
 - ウ 他のすぐれたもの
 - エ 他とは異質なもの

確認ポイント

- 線①「客観的な目を持つ」とは、どういうことか。次の文の空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

事実を や

な考え方だけでみないということ。

- 線②「人間は固定してしまい」とあるが、固定してしまふということとは、どうなってしまうことを表しているのか。十五字程度で書きなさい。

- 線③「巧みに溶かしてぬすむ」とは、どうすることか。次の文の空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

他の人やいろいろなものの中から をつく

り出すこと。

- 線④「自分を太らせ」とあるが、「自分を太らせる」とは、どういう意味か書きなさい。